

《第1回ICD特別賞受賞者活動報告》

第58回在日米軍三軍歯科学会テーブルクリニック



D.D.S., PH.D., F.I.C.D.
元日本大学 客員教授
明海大学 臨床教授
川崎市開業

平 井 順

●抄 録●

補綴処置後の歯の長期保存を考慮した歯内療法を目標にオリジナルなエンドシステムについて、2007年度ICD日本部会第38回冬季学会シンポジウムにて症例報告を行い、引き続き2010年第58回在日米軍三軍歯科学会においてテーブルクリニックにて術式のデモンストレーションを行った。

キーワード：第58回在日米軍三軍歯科学会、テーブルクリニック、JHエンドシステム

国際歯科学士会は今年創立100周年を迎える。この記念すべき年に第一回ICDアワード特別賞を賜うことは身に余る光栄でありこれも偏にご指導頂いた諸先輩方のお陰とこの場を借りて深く感謝を申し上げたい。

私は尊敬する故佐藤文吾先生の勧めで1991年、42歳の時に入会した(図1・上)。

推薦者は故友清博先生と故大津晴弘先生。当時ICDは歯科界の中核で活躍されている著名な先生方がフェローとして名を連ね他の追徒を許さない特別な権威ある学会という印象であった。既に面識のある先生方もいらしたが、学生時代お世話になった母校日本大学歯学部之恩師斎藤毅教授を初めとして、江間誠一郎先生等、大先輩との交流は世代を超えて同窓という温かい絆を感じることができた。そんな頃ある先輩から「学問には幾つもの学説があるが、生涯を共にできるのはこれだと思ふものを早く見つけ、惑わされずに深く追求することだ」と。そこで臨床の目標に以前より興味があった保母須弥也先生の顎運動(咬合)と大谷満先生のエコロジカルな歯内療法を臨床の両輪に定め

ることにした。大谷歯内療法研究会では故大津晴弘先生との出会いがあり、パーティカルコンデンセーションの面白さに目覚め、夢中で臨床に取り組んだ。この時に実感したのが、“歯髄は最高の根管充填材である”と言われているように、歯髄を保存した方が歯の延命には有利であること、“抜髄は最後の手段”ということであった。



図1 上：1991年認証式 下：2008年2月第38回冬季学会



図2 2010年3月在日米軍三軍歯科学会テーブルクリニックとテーブルクリニック会場にてICD齋藤毅会長と私

抜去歯で練習を重ねていくうちに、日本人の歯は根尖が曲がった根管が多いことに気がつく。拡大形成する場合根管の湾曲をそのまま直線的に削ってしまうと、湾曲部の内湾は削る量が多く歯は脆く破折の原因になる。そこで根管形成は本来の形態を壊さない形が理想であるという考えに至り、ポスト形成が可能な根管口から湾曲点までの直線部分を機械拡大域とし、超低速タービンと切削力を極力落としたフレキシブルなエンドバーを開発した。そして根尖の湾曲部はKファイルの先端にプレカーブを与え弱い捻れと掻き上げ操作を行うことによりトランスポーテーションを予防し元の形態を維持した形に形成をすることが可能となった。

更に根管充填においては、湾曲した根尖部までガッタパーチャを進めるために、根尖方向へプレカーブを付けたブラガーを考案し、先端がフレキシブルで自由に曲がるキャリアの開発に成功した。その後東洋化学研究所の藤沢睦雄先生の協力により、天然で不純物のないフローを追求したナチュラルガッタが完成した。これにより根管充填の際、余分な圧力のない無痛治療が可能となる。何ごとでも初めに理想有りきで、それを可能にするためには工夫を惜しまず目的を果たすための道具として器具や器材を積極的に創作してきた。近年は、Ni-Tiがブームであるが、日本人のように根管の頬舌幅が広くしかも根尖部の曲がった湾曲根管の場合、私が考えるエンドシステムがより有効と自負し

ている。このように一連のシステムが完成した時点で私の頭文字を付けてJHエンドシステムとしている。

2008年2月17日(日)第38回冬季学会にて「歯内療法における難症例の解析と対処法—長期保存を考えて」というメインテーマで開催され、齋藤毅フェロー、故井上昇フェロー、東海林芳郎フェローと私の4人のシンポジウム形式で、「歯内療法、そして長期保存への挑戦」と題して症例報告を行った(図1・下)。

2010年3月に第58回在日米軍三軍歯科学会が横田空軍基地メンバーの主催で開催された(図2)。日本に置かれている在日米軍基地は127ヵ所あるが、加えて環太平洋地域内の軍属歯科医師と日本の自衛隊、大学関係、開業医の歯科医師のための情報交換の場として1年に1度開催されている。会場は広尾にあるニュー山王ホテル(1946年に米国に接収された)は在日米軍のための施設で通常は米軍のための宿泊施設や会議等に利用されている。そのため日本人はパスポートが必要となる。今回タイトルは「Three dimensional control at the root apex in vertical condensational root canal filling」としてテーブルクリニックを行ったが、米国は専門医制度が定着しているので軍属の歯科医師は皆専門医で質問も専門的な内容のものが多かった。印象的だったのは午後からNi-Tiファイルの講演と研修を行う予定だという2人のDrと時間の許す限り、三次元的根尖の根管充填のコントロールは具体的にどのようにするのかなど、有意義な質疑応答の時間を持つことができた。

参考文献

- 1) 平井 順：歯内療法にクオリティをもとめて、平成14年度製作生涯研修ライブラリー No.243：7～9, 日本歯科医師会, 東京, 2003.
- 2) 平井 順, 高橋慶壮：臨床歯内療法学—JHエンドシステムを用いて—, クインテッセンス出版, 東京, 2005.
- 3) 平井 順：歯内療法、そして長期保存への挑戦—進行した歯内一歯周複合病変に対する診断および治療の一症例—, JICD, Vol.39, No.1, 1-3. 2008.
- 4) 橋本光二, 升谷滋行, 飯野文彦(編集), 平井 順(著)：歯科医療のおもしろさ—後輩達へ送る28のドラマ—, 口腔保健協会, 東京, 139-149, 2013.

Tri-Service Dental Conference 58th Annual Conference Table Clinic

Jun HIRAI, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D.

I had presented my original endodontic therapy named “JH Endo system” that had been developed to keep good longevity of the prosthodontically treated teeth at the Symposium of 38th winter meeting of ICD Japanese division in 2007. I had also shown my technical skill of the JH Endo system in detail at table clinic of Tri-Service Dental Conference 58th Annual Conference in 2010.

Key words : Tri-Service Dental Conference 58th Annual Conference, Table Clinic, JH Endo system